

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
分担研究報告書

新型コロナウイルス感染症に対する院内および
施設内感染対策の確立に向けた研究

研究分担者 富田 博秋 東北大学大学院医学系研究科 教授

研究要旨

全国の精神科医療機関では様々な新型コロナウイルス感染症対策がなされているものの、相互の取り組み内容が共有されておらず、多くの精神科医療機関では感染症対策に関して改善の余地を残している可能性が高いと考えられる。また、精神科領域では、諸般の事情により、規定の感染対策に沿った対応が困難な場合があることも想定される。そこで、本分担研究事業では、全国の精神科医療機関における新型コロナウイルス感染症対策の事例を集積、整理した。事例は日本精神神経学会の専門医研修基幹施設ならびに代議員所属施設に情報提供のご協力を呼びかけ、情報収集を行った。基本的な感染対策については参照可能な指針が策定されている一方、精神医療に特有な課題への対策については、地域や医療圏、精神科医療機関毎に多様な状況に置かれているため、単一のプロトコルでの対策指針の策定は現実的ではないと考えられた。このため、指針ではなく事例集という形で情報の整理を行って、全国で共有することで、各地域、医療圏、施設で、それぞれの状況に応じた新型コロナウイルス感染症対策の向上を図ることを目的として、「精神科医療現場における新型コロナウイルス 感染症対策事例集 第1版」として取りまとめ、全国の精神科医療機関への配信を行った。また、障害者施設についても同様の趣旨から、障害者施設で新型コロナウイルス感染症クラスターが発生した際の自施設における対応、医療支援、看護師派遣、行政における対応の事例として千葉県船橋市の指定管理施設である北総育成園（香取郡東庄町）における対応事例、障害者施設において、平時から新型コロナウイルス感染症マニュアルを策定しておく上で参照できる資料として、社会福祉法人菜の花会（千葉県成田市）の対応マニュアルを中心に編集し、「障害者施設における新型コロナウイルス感染症対策事例集」を策定した。また、この中でとりまとめた内容について、各種講演、出版物を通して、普及啓発を行った。

研究協力者：

相澤明憲（特定医療法人佐藤会 弓削病院）
上野修一（愛媛大学医学部附属病院 精神科）
河嶋譲（国立病院機構本部 DMAT 事務局／DPAT 事務局）
来住由樹（岡山県精神科医療センター）
岸本年史（奈良県立医科大学 精神医学講座）
國井泰人（東北大学災害科学国際研究所 災害精神医学分野）
齋藤正彦（東京都立松沢病院）
佐久間篤（東北大学病院精神科）
白江浩（社会福祉法人ありのまま舎）
曾我洋二（兵庫県立ひょうごこころの医療センター）
田口寿子（神奈川県立精神医療センター）
田中究（兵庫県立ひょうごこころの医療センター）
鳥塚通弘（奈良県立医科大学 精神医学講座）

福田正人（群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学）
福田陽明（東京都立松沢病院）
中村朗（地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院）
林典子（船橋市障害福祉課）
原見律子（千葉県健康福祉部 障害福祉事業課）
藤崎進（社会福祉法人菜の花会 しもふさ学園）
牧徳彦（医療法人鶯友会 牧病院）
牧之段学（奈良県立医科大学 精神医学講座）
山岸拓也（国立感染症研究所薬剤耐性研究センター第四室）

A. 研究目的

全国の精神科医療機関では様々な新型コロナウイルス感染症対策がなされているものの、相互の取り組み内容が共有されておらず、多

くの精神科医療機関では感染症対策に関して改善の余地を残している可能性が高いと考えられる。また、精神科領域では、諸般の事情により、規定の感染対策に沿った対応が困難な場合があることも想定される。そこで、本分担研究事業では、全国の精神科医療機関における新型コロナウイルス感染症対策の事例を集積、整理した。精神医療に特有な課題への対策については、地域や医療圏、精神科医療機関毎に多様な状況に置かれており、単一のプロトコルでの対策指針の策定は現実的ではないと考えられるため、指針ではなく事例集という形で情報の整理を行い、全国で共有することで、各地域、医療圏、施設で、それぞれの状況に応じた新型コロナウイルス感染症対策の向上を図ることを目的とした。

また、障害者施設の新型コロナウイルス感染症対策に関する自治体・事業所等の好事例については、既に複数の自治体に加え、「一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会」、「一般社団法人全日本自閉症支援者協会」、「発達障害情報・支援センター（国立障害者リハビリテーションセンター）」、「就労系障害福祉サービス事業所」における事例、「国就労移行支援事業所連絡協議会」による好事例集が厚生労働省ホームページに掲載されていた。これらの情報を事例集として編集し、障害者施設における更なる感染症対策の参考として活用されることを目的として、事例集を策定した。

B. 研究方法

本調査研究は、日本精神神経学会理事会承認のもと、専門医研修期間施設と代議員所属施設の代表者に後述のアンケートを配信して行った。調査は研究分担者・富田博秋（東北大学）と同学会理事・同班研究協力者・福田正人（群馬大学）が行った。本調査は東北大学大学院医学系研究科倫理委員会、および、日本精神神経学会倫理委員会の承認を得たプロトコルに従って実施された。

本研究では、新型コロナウイルス感染症予防の好事例を収集してWeb サイト、パンフレット、学会発表、講演会、論文、書籍などを通して公表し、全国の現場での活用を促すことを予定して実施された。公表を前提としているため、情報提供施設から同意を得て、個人情報に十分な配慮をした形での提供を依頼した。また、カルテ情報を含む個別の症例の

情報を記載することを避けるよう要請した。アンケートの集積には十分なセキュリティ対策が施された web アンケートツール Google フォームを使用し、ダウンロードしたデータは、ハードドライブ等に保存し、鍵のかかる書庫で管理した。データは研究終了後5年間保管した後、廃棄する計画であることを対象者に周知した。回答の送信をもって、上記趣旨を理解、同意を得たものとみなした。

また、論文やインターネットなどで公表されている事例についても事例集に取り込んだ。

調査質問内容：

(1) 病院レベルでの予防策

- ・「普通の外来診療」「普通の入院診療」において可能な予防策
- ・リスクが高いと考えられる場面における予防策
〔例〕ECT、脳波検査、心理検査 など
- ・精神疾患患者の特性を踏まえた予防策
予防策の理解や実行が難しいことに配慮した予防策の伝え方や実施方法
- ・入院患者の面会の実施方法

(2) 地域の一般医療・保健システム

- ・精神疾患の有無にかかわらず新型コロナウイルスの検査や診療が受けられる体制
精神疾患があることによる不利益が生じないシステム
- ・精神科の医療機関や施設が必要に応じて感染予防資材を入手できる体制
- ・地域生活を送る精神疾患患者のニーズや特徴に見合う情報提供体制

(3) 地域レベルでの精神医療システム

- ・措置診察や救急診察における予防策
身体症状を訴えられなかったり行動履歴を確認できない場合
身体的拘束などを必要とする興奮状態への対応
- ・措置診察や救急診察における新型コロナウイルス検査体制の確立
- ・措置診察や救急診察の進め方についての医療圏レベルでの体制

(4) 医療機関・福祉施設で「疑い状況」が生じた場合の対応策

- ・「疑い症例」への対応の明確化
- ・「疑い状況」の段階での病棟ゾーニングやクラスター発生予防
- ・「疑い状況」において感染症専門家から助言を受けられるシステム

(5) 新型コロナウイルス感染と濃厚接触の精神疾患患者の治療の場の確保

- ・感染者の治療の場の確保
新型コロナウイルス感染症と精神疾患それぞれの重症／中等症／軽症ごとに
- ・濃厚接触者の経過観察の場の確保とその期間の精神医療提供体
また、障害者施設についても同様の趣旨から、障害者施設で新型コロナウイルス感染症クラスターが発生した際の自施設における対応、医療支援、看護師派遣、行政における対応の事例として千葉県船橋市の指定管理施設である北総育成園（香取郡東庄町）における対応事例、障害者施設において、平時から新型コロナウイルス感染症マニュアルを策定しておく上で参照できる資料として、社会福祉法人菜の花会（千葉県成田市）の対応マニュアルを中心に事例集を編集した。

C. 研究結果

「精神科医療現場における新型コロナウイルス感染症対策事例集 第1版」として、下記の事例を集約した（巻末事例集参照）。

1. 感染予防策

事例1：情報共有

事例2：院内への予防策の周知

事例3：職員の健康管理

事例4：精神科医療機関の「検査協力医療機関」登録

事例5：大学病院精神科の感染防止対策

2. 医療圏ごとの体制の確保

事例6：医療圏におけるコロナクラスター対策チームの編成

事例7：医療圏における感染症対策本部と精神科医療機関の連携

事例8：医療圏内の精神科医療機関に対する感染防止対策の普及

事例9：公立精神科医療機関を拠点とする体制整備

事例10：医療圏における「精神科コロナ重点医療機関」の設置

事例11：医療圏における体制整備

事例12：医療圏における「新型コロナウイルス感染症クラスター対策班等養成研修（感染症指定医療機関及び精神科病院向け）」

事例13：感染症例の受け入れとPCR検査の体制整備

3. クラスター発生時の対応

事例14：クラスターが発生した医療機関の支援体制

事例15：院内クラスター発生時の診療上の留意点

事例16：院内クラスター発生時の労務上の留意点

事例17：COVID-19 専用の対策病棟

事例18：感染対策の診療上の工夫

4. 心理的サポート

事例19：職員のメンタルヘルス対策

事例20：クラスター発生後の職員のメンタルヘルス対策

事例21：誹謗中傷・風評被害対策

事例22：大学病院の医療従事者に対する心理サポート

また、「障害者施設における新型コロナウイルス感染症対策事例集」として以下の内容を集約した（巻末事例集参照）。

I. 障害者施設の新型コロナウイルス感染症対策に関する自治体・事業所等の好事例に関する厚生労働省のホームページの紹介

II. 各障害者施設における事前の準備

1. 各障害者施設における事前の職員に対する感染症対策に関する教育の徹底
2. 各障害者施設における感染症を施設に持ち込まない、広げないための方針、早期発見の仕組み、疑い患者が出た場合の対処の策定と運用
3. COVID-19 感染症流行状況における障害者施設職員健康管理における方針の明示と運用
4. 各障害者施設におけるクラスター発生を想定した体制表、感染者発生時の相談・連絡先、対応方針の事前準備
5. 各障害者施設における感染発生を想定した業務の流れの事前準備

III. 北総育成園におけるクラスターへの医療支援事例

1. 施設でのゾーニング
2. 施設職員への感染症防止対策の指導
3. 利用者管理票の作成
4. 入所者の保護者・家族に対する対応
5. 感染した入所者の治療と入院治療を要する場合の調整
6. 行政と施設との間の連携
7. クラスター発生後の職員の健康管理支援
8. 施設職員・応援職員への宿泊施設の確保
9. 北総育成園のクラスター発生後の施設

職員の精神的ケア
10. 当事例から得られた教訓

D. 考察

新型コロナウイルス感染症に対する精神科医療機関の対策の体制は、都道府県毎に大きく異なることが明らかとなった。感染した精神疾患罹患患者を引き受けて感染症と精神疾患の両方に対する治療を行うための専用の病床・病棟の確保、都道府県行政の積極的な精神科医療機関の感染対策への関与、感染症対策の専門家と精神科医療関係者との連携体制の構築、精神科医療機関従事者向けの感染症対策講習会の開催などの準備の程度において地域格差があるものと思われた。精神科医療機関内でのクラスター発生事例も全国に広がってきている。2020年12月16日現在で、インターネットにより「精神科病院」と「新型コロナウイルス感染症」での検索で把握されるだけでも、精神科病院で感染者が発生した都道府県が31、精神科病院で感染者が未発生の都道府県が16と、発生を体験している都道府県の方が多い状況となっている。また、入院患者・職員が感染した109の精神科病院のうち、感染者1人で終息した精神科病院が44.0%、感染者2人で終息した精神科病院が13.8%、感染者3人で終息した精神科病院が7.3%、感染者が4人以上発生した精神科病院が34.9%と、感染の発生状況も、地域、医療機関によって多様な状況である。精神科病院でのクラスター発生を機に医療圏の対策が進む側面もあると考えられた。他の医療圏の精神科医療機関でのクラスター発生事例からの教訓も含め、各医療圏での精神科医療圏の対策の共有化は、全国の精神科医療機関における新型コロナウイルス感染症対策を向上させる上で有益と考えられた。また、その後も第3波や変異種の出現、その次のピーク発生も危惧され、更なる実態把握、対策情報の共有も望まれる。障害者施設は精神科医療機関に比べて、施設間の情報共有や連携の体制に乏しく、情報の集約、共有が困難であると考えられる。千葉県船橋市の北総育成園における新型コロナウイルスクラスター発生への対応事例、千葉県成田市の社会福祉法人菜の花会の対応マニュアル策定事例の共有は、先行して厚生労働省ホームページに掲載されている「一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会」、「一般社団

法人 全日本自閉症支援者協会」、「発達障害情報・支援センター（国立障害者リハビリテーションセンター）」、「就労系障害福祉サービス事業所における事例」、「全国就労移行支援事業所連絡協議会」による好事例集とともに有益と考えられる。

また、本研究は新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めた当初の精神科医療機関の対策を集積してその事例を全国の精神科医療機関で共有するという当座の対応の役割を果たすことで、その後の事業による精神科医療機関の新型コロナウイルス感染症対策の標準化された情報提供に繋げる役割を果たしたと考えられる。その事業としては、令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）「精神科医療機関における新型コロナウイルス感染症に対する感染対策の現状と課題把握、及び今後の方策に向けた研究」や令和3年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業「精神科医療機関を対象とした感染対策研修に関する調査研究」があげられ、これらの事業に本研究のメンバーが参画したことで、その知見を次の事業に継承を行うことにも繋がったと考えられる。

E. 結論

精神科医療機関に特有な状況を考慮した新型コロナウイルス感染症への対策が必要である一方、感染した精神疾患罹患患者を引き受けて感染症と精神疾患の両方に対する治療を行うための専用の病床・病棟の確保、都道府県行政の積極的な精神科医療機関の感染対策への関与、感染症対策の専門家と精神科医療関係者との連携体制の構築、精神科医療機関従事者向けの感染症対策講習会の開催などの準備の体制は、都道府県毎に異なっており、適宜、他の地域の対策を参考に、各地域の状況に適した対策の体制を構築することが望まれる。障害者施設についても、クラスター発生事例や他施設の対策マニュアルを参考に対策が進むことが期待される。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 富田博秋、佐藤博俊、角藤芳久、國井泰

人、佐久間篤、牧野祐子、児玉栄一、徳田浩一、鈴木陽、吉田眞紀子、賀来満夫、押谷 仁、小坂健. 宮城県精神科医療機関新型コロナウイルス感染症対策ネットワークにおける対策指針策定の経緯と意義 ～コロナ禍が精神医療にもたらした教訓～ 日本精神科病院協会誌 39(11) 771-776, 2020

2) 富田博秋. COVID-19 が及ぼす精神科医療への影響. Depression Strategy 10(3) 1-4, 2020

3) 富田博秋、國井泰人. パンデミックと精神医療・精神科リハビリテーション 求められる精神保健医療福祉・自治体ネットワークの再編. 精神障害とリハビリテーション 24(2) 166-170, 2020

4) 富田博秋. 災害精神医学. 医師臨床研修制度に関する検討委員会編. 研修医のための精神科ハンドブック. 医学書院（東京）2020

5) 富田博秋、國井泰人、臼倉瞳、佐藤博俊、角藤芳久. 緊急時に備えた精神科医療における地域連携体制のあり方 ～東日本大震災から COVID-19 パンデミックまでの緊急時対応を振り返って～. 日本精神科救急学会誌「精神科救急」25, 2022

6) 富田博秋、國井泰人、臼倉瞳、瀬戸萌、佐藤博俊、角藤芳久. 新興感染症パンデミックにおける精神科的危機介入 ～COVID-19 パンデミックがもたらす教訓～. 精神科治療学 37(2) 171-176, 2022

2. 学会発表等

1) Hiroaki Tomita. Countermeasures of Japanese psychiatric communities against the COVID-19 pandemic. The 117th Annual Meeting of the Japanese Society of Psychiatry and Neurology, Kyoto, Japan. 2021/9/20

2) 富田博秋、國井泰人、臼倉瞳、佐藤博俊、角藤芳久. 緊急時に備えた精神科医療における地域連携体制のあり方 ～東日本大震災から COVID-19 パンデミックまでの緊急時対応を振り返って～. 第 29 回日本精神科救急学会学術総会. 福島. 2021/10/24

3) 富田博秋、國井泰人、臼倉瞳、佐藤博俊、角藤芳久. 宮城県精神科領域での COVID-19 対応状況. 精神科クラスター対応研修. 宮城. 2022/1/8

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

